どんな学校？

課程：全日制　普通科

「持続可能な社会の創り手」として、これからの社会で活躍できる資質・能力の育成を目標に、進路目標の実現だけでなく、将来も自走し続けるよう探究学習（未来共創）を中核に、生徒が成長を実感できる学校を目指して取り組んでいます。

どんなメンバー？

学　校　未来共創プロジェクト担当チーム

地　域　学校運営協議会 地域連携部会
未来共創コンソーシアム
（産学官民で構成される団体）

コミュニティ・スクールと未来共創コンソーシアムの関係は？

コミュニティ・スクールの地域連携部会メンバーは、未来共創コンソーシアムの中核を担っていて、文科省の提唱する地域コーディネーターのような役割も果たしてくれています。
例1）横浜市立大学 教授
…ゼミ生と協働で、教育の魅力化に取り組んでくださっています。
例2）FM横浜 営業部担当部長
…令和5年度にプロジェクトを担当していただきました。
例3）相鉄ホールディングス(株) 事業創造担当課長
…1学年の「未来共創プロジェクト」で講演。企業が社会課題の解決に真剣に取組んでいることを紹介していただき、生徒のPBLへのモチベーションアップに貢献してくださいました。

はじめたきっかけは？

横浜瀬谷高校は令和5年に2校の県立高校（瀬谷高校と瀬谷西高校）を再編・統合して誕生した学校です。
再編・統合前から、県教育委員会から教育課程研究開発校（シチズンシップ教育）の指定を受け、「総合的な探究の時間」を軸としたカリキュラム開発を進めてきました。旧瀬谷西高校は、完校までの期間、地域の企業等と協働して地域課題の解決に向けたPBL（課題解決型学習）に取り組み、令和4年度環境省及び消費者庁主催の食品ロス削減推進表彰において、審査委員会委員長賞を受賞しました。

新校となり、「地域の機関等と連携した体験的な学びを展開することにより、地域社会に積極的に貢献する態度を育む」というスクール・ミッションを根拠に、旧瀬谷高校のカリキュラムを引き継いだ新校の教育課程に旧瀬谷西高校で実施したPBLを融合すべく、ワーキンググループを中心に「総合的な探究の時間」のカリキュラム開発を進めてきました。

その後、「持続可能な社会の創り手として、これからの社会で活躍できる資質・能力の育成」という新たなスクールポリシーを策定したことを契機に、担当チームを作り、「未来共創プロジェクト」として推進しています。

神奈川県教育委員会教育局指導部
高校教育課高校教育企画グループ

この冊子はホームページにも記載しています →

すくコミ！

～コミュニティ・スクール事例集～

学校名　横浜瀬谷高等学校

活動名　未来共創プロジェクト

取組紹介

取組内容

	内　容
1	カリキュラム開発
2	新校1年目の取組
3	新校2年目の取組
4	成果と今後の展望

1 HOP

令和5年 春～

新校のカリキュラムの目玉は、2学年で行う2単位の「総合的な探究の時間」。1学期は探究の基礎や進路系の探究を進めた。同時に教員による「探究ワーキング」を発足（メンバーは総括教諭3名、教諭2名）。再編・統合前から関係のあった団体の他にも、新たなメンター団体探しに奔走した。

2 STEP

令和5年 秋～

9月から16の学問体系に分けたゼミ形式の個人探究を実施した。「探究ワーキング」が企画運営し、生徒が問いを立て、解決への糸口を探究し、発表も行った。
12月からは、各プロジェクトに分かれて、企業等と協働で地域の社会課題の解決に取り組むPBLがスタートした。
横浜市立大学の学生、横浜国立大学の院生と取り組むプロジェクトや、FM横浜に生出演し本校の探究活動を紹介するプロジェクト、さらに福島県の喜多方高校とオンラインで交流する等のプロジェクトもあり、PBLの幅は格段に広がった。
そして、3学期末には、メンターの企業等を招き、探究発表会を実施した。

3 JUMP

令和6年度

学年ごとに計画されていた「総合的な探究の時間」を3年間の系統的な探究として、「知る」「考える」「動く」「広める」から構成する「未来共創プロジェクト」として再構築した。
推進のため、未来共創コンソーシアム（産学官民で構成）を結成。担当チームで連絡調整、コーディネートを行って、より大きなスケールの地域連携に発展しつつある。
【1学年】学年単位
「GREEN×EXPO2027（国際園芸博覧会）を控える瀬谷の魅力化」を社会課題のテーマとして取り組む。
【2学年】グループ単位
食品ロス、教育の魅力化、地産地消、未病の改善、脱炭素、サーキュラーエコノミー等の社会課題を未来共創コンソーシアムと協働で取り組む。80以上のグループに分かれている。中には生徒自ら企業を探し、校外に出て、探究活動を実践しているグループもある。
【3学年】個人単位
Ⅰ型とⅡ型に分かれ、Ⅰ型では、個人研究・小論文の作成、Ⅱ型では、2学年で実施した課題解決学習を更に深め、実際に課題解決に「動く」活動に取り組む。

4 FLY

令和5年度の取組における事前事後の検証で、「地域の社会課題を自分ごととして捉えているか」「地域や社会の課題の解決に向けて行動することができるか」、「自分のあり方や生き方について考えているか」等の項目について、向上がみられた。
また、これまでの取組が評価され、（一財）三菱みらい育成財団の助成事業にも採択された。今後も持続可能なシステムの構築が大事と考え、検討を重ね、運用していく。

先生の思い

身近な地域の社会課題の解決に企業等と取り組むことで、スクールポリシーである「持続可能な社会の創り手」として自走できる大人に成長してほしい！

生徒の感想

- 社会課題について知るだけでなく、解決策を考え、解決に向けて行動することで、課題が「自分ごと」になることに気がつくとともに、自信になりました。
- 地域の住民や企業の方々と一緒に取り組むことで、活動の幅を広げることができました。

地域の感想

横浜瀬谷高校が誕生し、学校の教育活動の様子が見えるようになった。高校生が、自治会の高齢者を対象に回覧板の代わりとなるスマホの使い方教室を実施してくれ、感謝している。
また、高校を通じて、近隣の小学校や中学校、幼稚園や特別支援学校とも交流が活発になり、大変うれしく思っている。今後も一緒に地域を盛り上げていきたい。